

美郷村の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

黒崎 仁資^{*1} 坂口 敏司^{*2} 谷田 望^{*3} 富田 眞二^{*4} 中野 眞弘^{*5} 板東 知子^{*6}
 広塚 荘子^{*7} 村上 香奈^{*8} 森兼 三郎^{*9}

1. はじめに

美郷村は徳島県のほぼ中央部、四国山地の北側に位置し、東に鴨島町、北に川島町と山川町、西に穴吹町、南に神山町と木屋平村、六つの町村に隣接する山間の村である。村の中央には蜷で有名な川田川が南北に流れ、吉野川中流に注いでいる。

私たち社寺建築班は、7月26日から村内に入り、社寺建築を建築学的見地から神社は12ヶ所、寺院、お堂は10ヶ所を調査し、案内図（後掲の図6）を作成し、それぞれの建立年代や構造、建築様式などを一覧表（表1・2）にまとめた。そのうち神社3ヶ所、お堂4ヶ所については詳細調査を行い、実測図を作成した。

また、13ヶ所の社寺から167枚の棟札^{むなふだ}を発見し、その寸法、年代、大工名等の内容を調査することができ、建立年代等の確定に大きな成果を得た。

以下、その調査内容について報告する。

2. 美郷村の社寺建築概要

1) 神社建築の概要

神社は12社を調査した。その建築年代については、書籍や棟札等から確認できるもの以外は、建築様式から推測することとする。最も古いものは、種野山^{たねのやま}稲荷神社本殿（図1）で、『阿波の社寺建築』（1997）に18世紀中期と紹介されており、これは江戸中期にあたる。小規模で簡略型の社殿であるが、彩色のあとがはっきりと残っており、絵様と合せて時代様相を表している。江戸後期のものとしては、種野山八幡^{はちまん}神社本殿が、棟札から文化14年（1817）に建てられたものであることが確認できた。

また、中村山八幡神社本殿が様式から判断するかぎり、幕末のものと推測される。その他では、広旗八幡^{ひろはた}神社本殿（図2）が、慶応4年（1868）の建立であることが、棟札から確認できた。以上の2社が江戸末期のものである。



図1 種野山稲荷神社本殿 正面



図2 広旗八幡神社本殿

*1 黒崎建設 *2 坂口建築設計室 *3 徳島大学工学部 *4 富田建築設計室 *5 真建築都市研究室
 *6 徳島県鳴門土木事務所 *7 西田設計 *8 徳島大学工学部 *9 A+U森兼設計室

その他の神社は棟札及び様式から判断する限り、明治以降に建立されたものと考えられる。

本殿の建築様式は、見世棚造りの小社殿を除いて全てのものが流造りであった。流造りとは切妻、平入りの本殿の正面の屋根を伸ばし向拝としたもので、全国的に最も広く分布した造りで、県下においても圧倒的に多い様式である。規模では、^{けたやま} 桁山八幡神社本殿（図3）と種野山八幡神社本殿、^{ひら} 広旗八幡神社本殿の3社が三間社で最も大きく、中でも種野山八幡神社本殿は、背面が二間と変則的な造りとなっている。その他は全て一間社であった。

また細部の特徴としては、^{わきしょうじ} 脇障子が9社で見られ、そのうち彫刻が施されたものは2社であった。本殿脇に随神像を安置するものは2社確認できたが、中村山八幡神社は両脇に小屋根がつけられており、『阿波の社寺建築』（1997）に神像を安置するとの記述があり、随神像が置かれていたものと思われる。また、本殿に彩色の痕跡が残るものが3社あり、^{きだん} 基壇にはほとんどの本殿に青石（^{あおいし} 緑泥片岩）が積まれていた。



図3 桁山八幡神社本殿



図4 谷の四足堂

その他様式に地域的な大きな特徴は見られなかったが、全体的に老朽化が進んだ神社が多かったのが気がかりである。

2) 寺院建築の概要

寺院は3カ寺、お堂は7カ所を調査した。

寺院建築は比較的新しいものが多く、すべて大正以降に建てられたものであった。

お堂建築については、最も古いものは、村指定有形文化財の^{ひがしまきやまくしどう} 東槇山薬師堂で『徳島の文化財』（1997）に文化年間（1804～18）建立と紹介されている。同じく村指定有形文化財の^{よつあしどう} 谷の四足堂（図4）は、昭和2年の再建と『徳島の文化財』（1997）に記述があり、棟札からも確認できた。また、^{ふるいじぞうどう} 棟札から古井地蔵堂が明治14年、種野薬師堂が明治32年に建てられたことが確認できた。

また、^{さんげんどう} 剣山周辺には木造三間堂で^{ほうぎょうやね} 宝形屋根のお堂が数多く点在するが、尾根を境に北斜面と南斜面で形態が大きく異なる。南斜面の堂が閉鎖的なものに比べ、北斜面の堂は壁も戸もない開放型が多く、共に床を張り奥正面に仏間を設けて本尊を安置する。美郷村内のお堂においても、谷の四足堂をはじめ、北斜面の形態である開放型のお堂が多かった。

構造的には、現代の組み方とは異なる、柱の上に梁を載せてその上に桁を置く、^{おりおきぐみ} 折置組という小屋組（図5）が、3つの堂に見られた。

また、『美郷村史』（1969）をはじめさまざまな文献に多くのお堂が紹介されており期待していたが、廃絶したものや、所在のわからなかったものも多く、7ヶ所の調査に留まった。



図5 谷の四足堂 小屋組



暮石八幡神社本殿 (1)



平八幡神社本殿 (3)



照尾八幡神社本殿 (4)



宮倉八幡神社本殿 (5)



八坂神社本殿 (6)



真福寺 (A)



重楽寺 (B)



円往寺 (C)

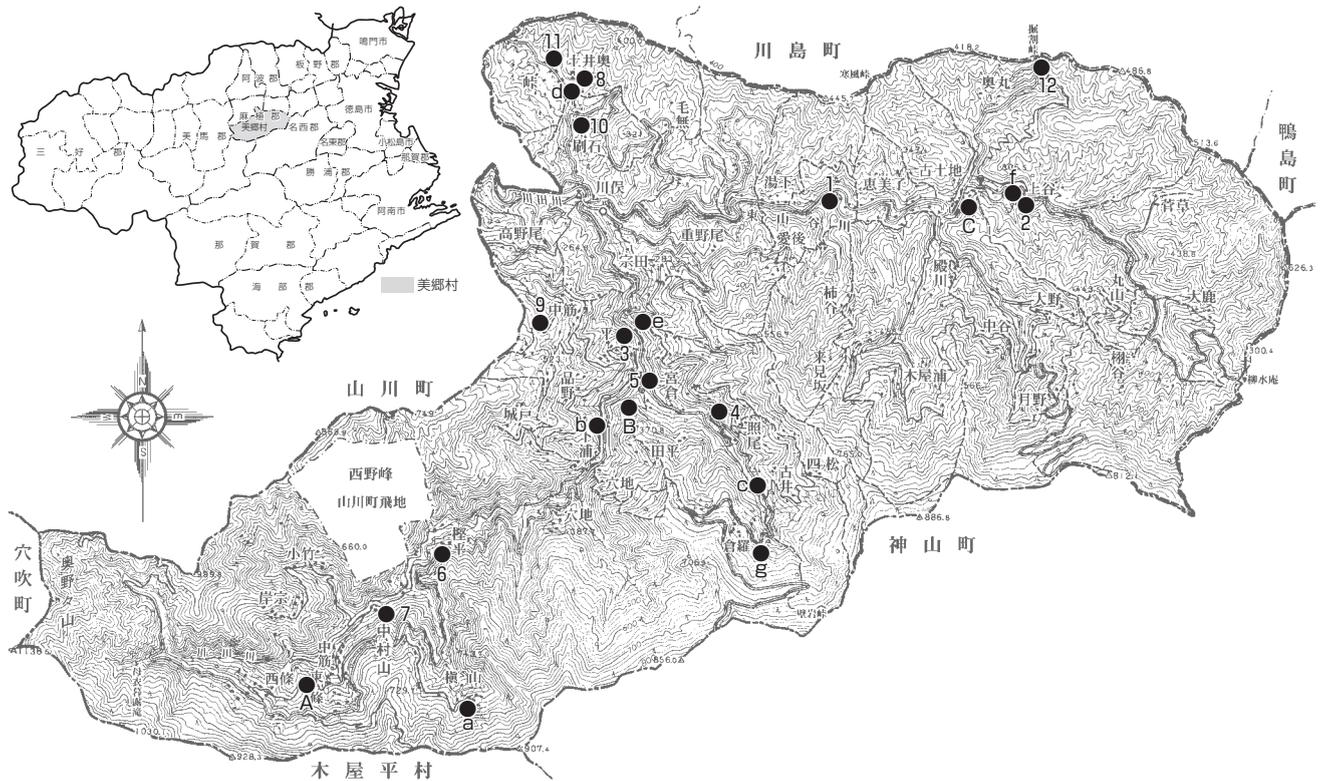


図6 美郷村の社寺建築案内図

- | | | | |
|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 1. 暮石八幡神社 | 7. 中村山八幡神社 | A. 真福寺 | d. 種野薬師堂 |
| 2. 広旗八幡神社 | 8. 種野山八幡神社 | B. 重楽寺 | e. 市野々地藏堂 |
| 3. 平八幡神社 | 9. 桁山八幡神社 | C. 円往寺 | f. 栗ノ木大師堂 |
| 4. 照尾八幡神社 | 10. 種野山稻荷神社 | a. 東横山薬師堂 | g. 倉羅観音堂 |
| 5. 宮倉八幡神社 | 11. 天神社 | b. 谷の四足堂 | |
| 6. 八坂神社 | 12. 船戸大明神 | c. 古井地藏堂 | |

表1 神社建築調査一覧表

神社名	鎮座地	創建	祭神	旧社格	鳥居様式(材料)
1 暮石八幡神社	暮石1	不詳	誉田別命	旧村社	明神(御影) 大正13年
2 広旗八幡神社	栗木100	不詳	誉田別命 足仲彦命 息長足姫命 天日鷲命 国常立命 月夜見命 大物主命 大山祇命 天種子命 仁徳天皇 菅原道真	旧村社	明神(御影) 昭和3年
3 平八幡神社	別枝山字平八1	不詳 明治8年村社となる※1	誉田別命 足仲彦命 息長足姫命	旧村社	台輪(御影) 昭和13年
4 照尾八幡神社	別枝山字照尾75	不詳	誉田別命 足仲彦命 息長足姫命	旧無格社	明神(御影) 平成9年
5 宮倉八幡神社	別枝山字宮倉13	不詳	誉田別命 足仲彦命 玉依姫命	旧無格社	明神(御影) 大正10年
6 八坂神社	中村山字樫平115	不詳	素戔鳴命	旧無格社	明神(木造)
7 中村山八幡神社	中村山字中筋29	天正19年(1591)※2	応神天皇 神功皇后 玉依姫命	旧無格社	明神(御影) 昭和11年
8 種野山八幡神社	土井奥194	不詳 明治8年村社となる※1	誉田別命 足仲彦命 息長足比売命	旧村社	明神(御影) 明治28年
9 桁山八幡神社	品野283	不詳	品陀別命	旧村社	明神(木造)
10 種野山稲荷神社	刷石1373	不詳	倉稲魂命		明神(木造)
11 天神社	土井奥	不詳			明神(木造)
12 船戸大明神	奥丸	不詳			

※1『美郷村史』(1969) ※2『阿波の社寺建築』(1997)

表2 寺院建築・御堂建築調査一覧表

寺院名	所在地	開基	宗派	本尊	建物名 屋根形式 屋根材 建築年代
A 真福寺	中村山字西谷46	元龜2年※1 (1571)	真言宗	不動明王	本堂 木造 入母屋造 本瓦葺 平成7年再建
B 重楽寺	別枝山字宮倉100	不詳	真言宗	聖観音	本堂 木造 入母屋造 本瓦葺 昭和12年再建 弁天堂 木造 宝形造 銅板葺 昭和58年再建
C 円住寺	栗木128-1	不詳	浄土真宗	無量寿仏	本堂 木造 入母屋造 銅板葺 大正12年移設 平成8年屋根葺替
a 東横山薬師堂	中村字東横山	不詳		薬師如来	堂 木造 宝形造 茅葺鉄板巻 昭和56年修復
b 谷の四足堂	別枝字閑定	不詳		地藏菩薩	堂 木造 宝形造 茅葺鉄板巻 平成6年屋根改修
c 古井地藏堂	別枝字古井	不詳		地藏菩薩 毘沙門天 不動明王	堂 木造 切妻造 鉄板葺 四方出桁造
d 種野薬師堂	種野	不詳		薬師如来	堂 木造 切妻造 鉄板葺
e 市野々地藏堂	別枝市野々	不詳		地藏菩薩	堂 木造 切妻造 棧瓦葺 昭和62年再建
f 栗ノ木大師堂	東山栗ノ木	不詳		弘法大師	堂 木造一部ブロック造 切妻造 本瓦葺
g 倉羅観音堂	別枝倉羅	不詳		観世音菩薩	堂 木造 宝形造 銅板葺 平成7年再建

※1『美郷村史』(1969) ※2『徳島の文化財』(1997)

平成15年8月末日現在

本殿 建築様式	拝殿 建築様式 向拝	特記事項	A	B	C
木造一間社流造 鉄板葺 浜床	木造 切妻造 棧瓦葺		○		○
木造三間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 本瓦葺 向拝：軒唐破風 本瓦葺	大正9年小社21社を合併 棟札19枚 最古は延享4年(1747) 現在のものは慶応4年(1868)	彫		○
木造一間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 鉄板葺 向拝：入母屋造 鉄板葺	境内に美奴間神社	○	○	
木造一間社流造 銅板葺	木造 切妻造 棧瓦葺 向拝：入母屋造 棧瓦葺		○		○
木造一間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 本瓦葺 向拝：大唐破風 本瓦葺		彫	○	
木造一間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 棧瓦葺		○		○
木造一間社流造 鉄板葺 見世棚	鉄骨像 切妻造 スレート葺き	棟札60枚 最古は寛文11年(1671) 彩色の痕跡あり	○		○
木造三間社流造 銅板葺 背面は二間	木造 入母屋造 棧瓦葺 出桁造	棟札23枚 最古は寛永4年(1627) 彩色の痕跡あり	○		○
木造三間社流造 鉄板葺	木造 入母屋造 鉄板葺	棟札17枚 最古は享保元年(1716)	○		○
木造一間社流造 鉄板葺 見世棚	木造 切妻造 本瓦葺 向拝：入母屋造 本瓦葺	棟札19枚 最古は寛永8年(1631) 現在のものは18世紀中期※1 彩色の痕跡あり			○
木造一間社見世棚造 鉄板葺	木造 切妻造 本瓦葺	棟札5枚 最古は大正12年(1923)			○
鉄筋コンクリート		棟札1枚 平成2年(1990)			

A：板脇障子、彫は彫刻あり B：随神像 C：青石基壇

平成15年8月末日現在

建物名 屋根形式 屋根材 建築年代	特記事項
庫裏 木造 切妻造 棧瓦葺	
祇園宮 木造一間社見世棚造 銅板葺 薬医門	本堂：出桁造 祇園宮：棟札8枚 最古は享保14年(1729) 弁天堂：棟札5枚 最古は享保12年(1727)
	現在の建物は文化年間(1804~18)※2 小屋組みは折置組
	棟札1枚 昭和2年(1927) 小屋組みは折置組
	棟札2枚 最古は宝永6年(1709) 現在の建物は明治14年
	隣に奥野々神社 小屋組みは折置組 棟札3枚 最古は文政元年(1818) 現在の建物は明治32年
	明治の中頃に栗ノ木に移る
	棟札4枚 最古は宝暦8年(1758)

3. 美郷村の各社寺建築

1) 中村山八幡神社 (表1-7)

鎮座地—中村山字中筋29

[本殿] 木造 一間社流造 銅板葺

身舎—もや円柱 こしなげし腰長押 うちのり内法長押 かしらぬき きばな頭貫木鼻(拳鼻)

でみつと出三斗 ひとのきしげだるき一軒繁垂木

つまかざり妻飾・虹梁 たいへいづかおいがたつき大瓶束笈形付

向拝—こうはい角柱(大面取) おおもんとり虹梁型頭貫木鼻(蓮華)

つれみつと つなぎえび連三斗 なかぞなえかえるまた繫海老虹梁 ふたのき中備 蓑股 ふたのき二軒繁垂木

さんぼうきれめ えん はねこうらん三方切目縁 はねこうらん芻高欄 たしげ脇障子(板) けんせ見世棚造

ちぎ千木—かつおぎ水平切 堅魚木—3本 (図7~10)

この社は美郷村西部の中村山に鎮座する。創建年代は天正19年(1591)と伝えられる。「寛保御改神社帳」に中村山大宮名八幡宮の記述がある。

本殿は一間社流造りで、乱積みらん積みの青石基壇に載る。小規模な社殿であるが、要所において檜材けやきが用いられている。身舎部分みんせは円柱を腰長押と内法長押で固め、柱頭部には拳鼻付の頭貫が載る。身舎の組物は出三斗である。妻飾は虹梁の上に斗付の大瓶束を立て、笈形を付けて下端には蓮華が座る(図8)。



図7 本殿側面



図8 本殿妻飾

向拝部分は面取の角柱をたて、虹梁型頭貫で固め蓮華木鼻がつく。柱頭部は連三斗の組物で構成され、丸桁から突き出した繫海老虹梁が身舎の頭貫に取り付く。虹梁や肘木に施された彫刻は簡素であるが洗練されていて美しい。また、これら向拝部から身舎にかけての組物に、彩色の痕跡をみることができる。身舎周囲は三方に切目縁をまわし芻高欄が脇障子に取り付く。脇に神像を安置したものは、この地方でよく見られるが、高欄中央まで壁を立ち上げ小屋根を付けて神像を安置する形態は特徴的である。軒は、向拝部が二軒繁、背部を一軒繁垂木とし、木階や昇り高欄はなく、見世棚造とする。

社殿の周囲には、自然石で積まれた数多くの祠ほこらや小社殿がみられ、それらの棟札も一緒に納められていた。『美郷村史』(1969)によると、旧三村において明治45年から大正5年にかけて、村社を原則一社とする取り決めのもと、周辺の19社を合祀したとある(図10)。今回の調査においては、神社名の異なる60枚の棟札を確認することが出来たが、現在の社殿の建立年代にあたるものは特定できず、様式より幕末と推定される。

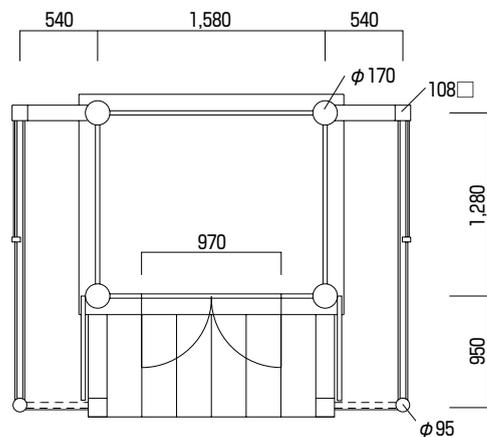


図9 本殿平面図



図10 合祀された小社殿群

2) 種野山八幡神社 (表1-8)

鎮座地—土井奥194

[本殿] 木造 三間社流造(背面二間) 銅板葺
 身舎一円柱(粽) 切目長押 内法長押 頭貫木鼻
 (拳) 出三斗 妻飾・虹梁 大瓶束笈型付
 二軒繁垂木
 向拝一角柱(几帳面取) 虹梁型頭貫木鼻(象・錫杖
 彫) 連三斗 中備墓股 繫海老虹梁(錫杖彫)
 三方切目縁 刎高欄 脇障子(板) 木階四級
 (板)

千木—垂直切 豎魚木—3本 (図11~14)

この社は村の中央部の北方、土井奥に鎮座する。本殿は村内に3社ある三間社流造りの一つであるが、背面を二間とした変則的な構成を取る。屋根は銅板葺きで、青石(緑泥片岩)の乱積み基壇に載り、全体に朱の彩色の跡が見られる(図12)。

身舎は粽付きの円柱で切目長押と内法長押で固め、柱頭部は頭貫で繋ぐ。頭貫の木鼻は側面及び前後共に拳鼻である。また、頭貫上部には台輪はなく、

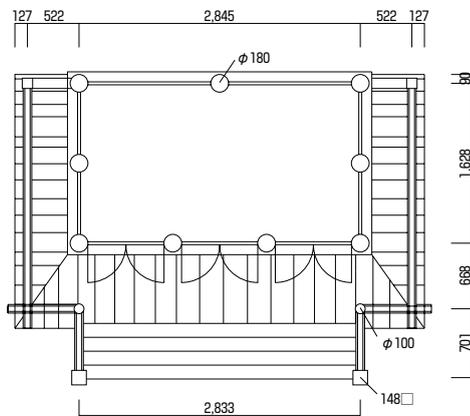


図11 本殿平面図



図12 本殿全景

直接組物の出三斗が載り虹梁を受ける。柱間には彫刻などの飾りはない。妻飾りは大瓶束に大きな笈型が取り付く(図13)。

向拝は几帳面取りされた角柱に、連斗付きの出三斗(連三斗)が載る。虹梁型頭貫は錫杖彫りが施され、中備には足元の広い墓股が置かれ、両側面には象の木鼻が取り付く。身舎との繋ぎは海老虹梁であり、ここにも錫杖彫りが見られる。軒は二軒繁垂木、木階は四級の板階段で、両脇に登擬宝珠高欄が付く(図14)。

全体に丁寧な造りの本殿であるが、縁回りは痛みがひどく、右側の刎高欄は欠落している。

現在の本殿は23枚確認できた棟札から推測すると、文化14年(1817)建立の可能性が高い。また、拜殿も棟札より明治41年(1908)の建立と推測する。形態は正面に入母屋の妻側を見せた片入母屋造りであり、正面のみ出桁造りとしている。屋根は平成12年(2000)に棧瓦で葺き替えられている。



図13 本殿妻飾



図14 本殿正面

4) 東横山薬師堂 (表2-a)

所在地—中村字 東 横山

木造 方三間 宝形造 茅葺鉄板卷

角柱 地長押 腰長押 内法貫

(図19・20)

この薬師堂は美郷村最奥地の横山にあり、以前は雑木彫刻の薬師如来像を本尊としていたが、現在は他へ移されている。この建物は、村の有形文化財に指定されており、昭和56年に修復されているが、現在は荒れ果てている。

様式は、方三間宝形造、小屋組は折置組、床は拭板張り、壁は正面中央の柱間以外に腰板を張り、屋根は茅葺を鉄板で覆っている。剣山北斜面に見られる開放的なお堂である。

内部の正面奥中央に仏間があり、三枚の引き違いの格子戸の中に、妻入り片入母屋造りの厨子がある。厨子には彩色の痕跡が見られる。

敷地内には庚申碑、堂内には文化10年 (1813) 銘の梵鐘がある。

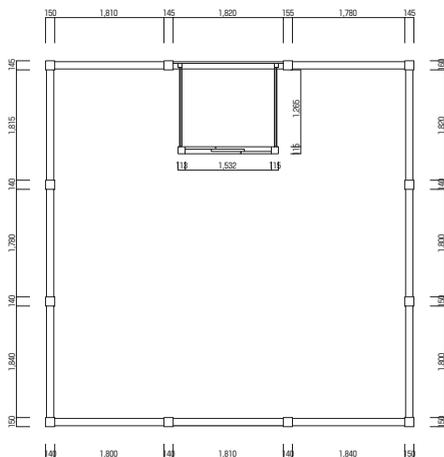


図19 平面図



図20 全景

5) 谷の四足堂 (表2-b)

所在地—別枝山 閑定

木造 桁行三間 梁間三間 寄棟造 茅葺鉄板卷

角柱 地長押 腰長押 (欠落) 内法長押

内法貫 飛貫

(図21)

別枝谷が四国山地を深く侵食して、深い横谷をつくりこれに沿って旧剣山街道が通じていた。このお堂はその道端のわずかな平地に建つ。谷底のお堂という意味で、この名が付けられたと思われる。創建年代は古く飛騨の匠が一夜で建立したと伝えられ、大同2年 (807) の棟札が近年まであったという。大正15年 (1926) に宿泊した遍路の失火で全焼、昭和2年に大工後藤與三郎により再建された。

この本堂は桁行・梁間ともに三間の大きな建物である。現在は戸も壁もない吹抜けの状態であるが、柱には貫穴があり、腰板が張られていた痕跡がある。本来は茅葺屋根であったが、平成6年の屋根改修の際に現在の茅葺鉄板巻となった。屋根の特徴として、建物が桁行・梁間ともほぼ同寸の正方形のため、正面性をだすために勾配を変えて寄棟としている。正面には菊の彫刻が施された飛貫がみられる。小屋組は梁の上に軒桁を載せる折置組となっている。

正面奥には桁行一間・梁間一間半、切妻鉄板葺の仏間があり、本尊を祀る。

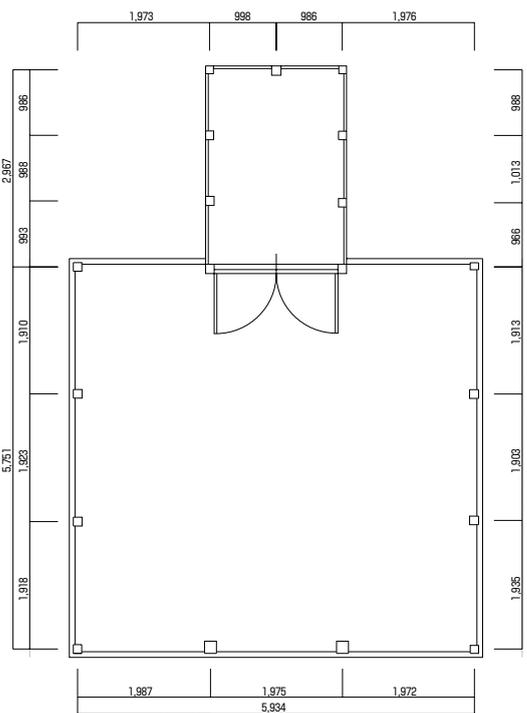


図21 平面図

6) 古井地蔵堂 (表2-c)

所在地—別枝字古井

木造 梁間三間 桁行三間 切妻造 トタン葺
 角柱 地長押 腰長押 内法長押
 一軒疎垂木 (図22~23)

この堂は国道193号線沿いにあり、境内には五輪塔と板碑が十数枚ある。

様式は妻入りの切妻造、屋根はトタン葺で前後に庇がある。自然石の上に角柱を立て、地長押、腰長押、内法長押で固めている。壁は地長押から腰長押までは板張り、腰長押から内法長押までは縦格子となっている。堂の中央奥正面には厨子が置かれている。

梁間方向、桁行方向とも三間で、桁行方向がやや長い。柱の配置は各方向ともに等間隔であるが、正面には彫刻のある飛貫を設けて正面性をもたせている。

小屋組は柱の上に桁を載せこの桁の上に梁が載る京呂組で、梁の上端がそろって現代的な造りである。棟札からは明治14年(1881)の建立と判断するが、小屋組から上部については、様式などから昭和期に修繕が施されたと考えられる。また、四方に彫刻のある梁が突出した出桁造であり、この梁の上に丸桁を回して軒を深くしている。床は拭板張りである。

「宝永六年八月再興」「明治十四年八月再興」の棟札を確認した。

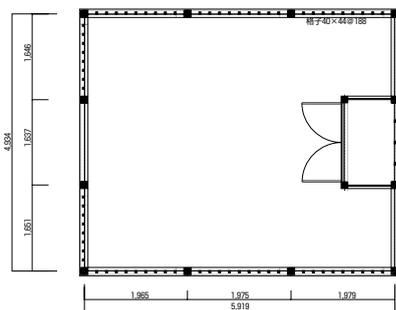


図22 平面図



図23 全景

7) 種野薬師堂 (表2-d)

所在地—種野

木造 梁間三間 桁行五間 切妻造 鉄板葺
 角柱 地貫 腰貫 内法貫 飛貫
 一軒疎垂木 (図24~25)

梁間三間桁行五間の妻入り切妻造りで、剣山北斜面にみられる三方が開いている開放的なお堂である。元は礎石だったが、一部コンクリートブロックに改修されている。軒は一軒疎垂木で、外壁に波トタンが張ってある。床は拭板張りである。長押を使わずに貫を使っており、地貫、腰貫、内法貫により柱を四方から固めている。中央庇下に虹梁型の飛貫がある。また、小屋組は折置組である。柱は角柱で、上部に組物はない。正面性をとるために、中央柱間を広くとっており、向拝をつけずに正面に近代的な庇がある。正面の奥一間分は、中央に仏間を設け、厨子を置く。右に奥野々神社を祀っている。左は物置となっている。厨子は、妻入り片入母屋造りで台輪がなく、彩色が施されている。古く、痛みはひどいが本格的なつくりである。

現在の建物は、棟札より明治32年(1899)に建立、昭和39年(1964)に改修されている。

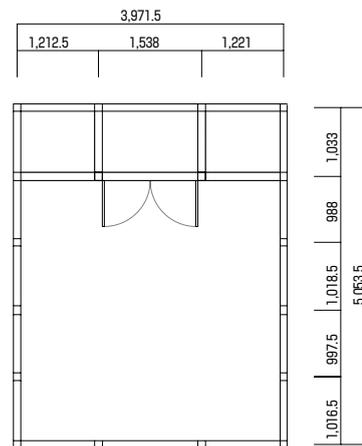


図24 平面図



図25 全景

4. 棟札

棟札は、建築年代の確定や、工事に関わった人物、また、建替えや修繕などの回数を知ることができる貴重な資料である。今回の調査においては、13ヶ所167枚の棟札を調査することができた。

調査場所と枚数及び最古のものは、以下の通りである。

広旗八幡神社	19枚	延享4年 (1747)
中村山八幡神社	60枚	寛文11年 (1671)
種野八幡神社	23枚	寛永4年 (1627)
桁山八幡神社	17枚	享保元年 (1716)
種野山稲荷神社	19枚	寛永8年 (1631)
天神社	5枚	大正12年 (1923)
船戸大明神	1枚	平成2年 (1990)
重楽寺弁天堂	5枚	享保12年 (1727)
重楽寺祇園宮	8枚	享保14年 (1729)
谷の四足堂	1枚	昭和2年 (1927)
古井地藏堂	2枚	宝永6年 (1709)
種野薬師堂	3枚	文政元年 (1818)
倉羅観音堂	4枚	宝暦8年 (1758)

一番多くの棟札を所蔵していたのは、中村山八幡神社で60枚であった。これは、合祀された神社の棟札を御神体とともに納められたと考えられ、稀なケースであるといえる。『美郷村史』(1969)によると合祀された神社の中に八幡神社と呼ばれていた神社が2社あり、どこのものか確定できないため、中村山八幡神社の建築年代の確定はできなかった。60枚の内訳は、以下の通りである。

八幡神社 (八幡宮)	15枚
鎮守神社 (鎮守権現宮)	23枚
古城神社 (古城大明神)	6枚
山王神社 (山王権現社)	11枚
管神社	1枚
城九大明神	2枚
矢野九大権現	2枚

年代が確実な最古の棟札は、種野山八幡神社の寛永4年 (1627) であった (図26)。

寸法では、広旗八幡神社の昭和63年 (1988) の棟札が総高1632mmで最大であった。最小は、中村山八幡神社の城九大明神の天明3年 (1783) の棟札で総

高320mmであった。年代による寸法の特徴は見受けられないが、社殿の規模によって寸法が異なる傾向があり、大きい社殿は大きく、小社殿は小さくなる傾向があった。寺社建築の棟札は、棟木に取り付けず、神殿の中に納められるので寸法的に制限されるためと考えられる。また、本殿の建替え時は建設に関わる地域の役員、大工など棟札に記名する数も増え大きな棟札になると考えられる。また、どの建物も工事の種類が同じであれば、ほぼ同寸であり、前例に倣ったと考えられる。

形状では、上部が山型になった尖頭型がほとんどであったが、広旗八幡神社の明治以後のものは全て水平となっている平頭型となっていた、また、それ以前のもの、尖頭型に加工されているが、さらに三角形の中に梵字が墨書きされており、他所では見受けられなかった。下部の隅を切り落とした鬼門切は江戸時代のものに確認できたが全てには施されていなかった。

棟札に書かれた人物では、江戸時代のものには藤原系を名乗る大工の名前がほとんど書かれている。また、地元の大工の名前も多く見られるが、美馬郡の大工も見られた。美郷の大工では、鎌谷幾右衛門 (幾五左衛門) が四国一の堂宮大工といわれるほど有名であった、広旗八幡神社の文政7年 (1824) と天保4年 (1833) の棟札にその名前を見ることができた。



図26 種野山稲荷神社棟札

5. おわりに

今回の調査で、神社建築については、建築様式などに大きな特徴は見出せなかったが、肘木が直線的でなく、派手な彫刻も少ないことから、県西部の影響をあまり受けていないと考えられる。また、100枚を超える棟札を調査することができ、多くの建物の建築年代や大工が確認できたことは、大きな成果であった。

寺院建築については建替えが進み古いものが無かったのは残念であったが、お堂建築は年代的にも古いものが残っており、村指定の有形文化財も2つあり、みるべきものは多かった。

しかし、全体的に傷みの激しいものが多く、貴重な建物を後世に伝えるという意味からも、十分な維持管理をお願いしたい。

また本稿では、建築年代を表す上で、江戸時代の年代区分は、建築的な特徴から前期を1615年～1660年、中期を1661年～1750年、後期を1751年～1829年、

末期を1830年～1867年に分けた。

最後に、今回の調査において、多くの村民の方々に親切に場所を教えて頂いた。この場を借りてお礼を申し上げます。

文 献

- 美郷村史編集委員会（1969）：『美郷村史』美郷村役場。
- 徳島県神社庁教化委員会（1981）：『徳島県神社誌』徳島県神社庁。
- 奈良国立文化財研究所編（1990）：『徳島県の近世社寺建築（近世社寺建築緊急調査報告書）』徳島県教育委員会。
- 文化庁文化財保護部（2001）：『民俗資料選集29茶堂（辻堂）の習俗Ⅱ』（財）国土地理協会。
- 阿波のお堂の習俗研究会（1988）：『阿波のお堂』徳島県出版文化協会。
- 岡島隆夫（1999）：『阿波の神々と祭り（二）』。
- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会（1986）：『角川日本地名大辞典 36 徳島県』角川書店。
- （社）徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会（1997）：『阿波の社寺建築』阿波のまちなみ研究会。
- （社）徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会（1997）：『徳島県の文化財【構造物】』（社）徳島県建築士事務所協会。